

不動堂立派に完成

六月二十八日落慶法要 午後三時より

一 不動堂の建物もこのほど立派に完成して、過



日五月十九日、修復の終わったお不動様を無事、新しい不動堂に移すことが出来ました。不動堂の境内も、中央に残された電柱の移動や、野外トイレの撤去、樹木の整備など、徐々にあります。が、

整備されて来ました。

新しい不動堂の落慶

法要は、来る六月二十八日

(土曜日)午後三時から予定しています。



今の常楽寺は、明治二十七年に、かつての宝泉村大字上田島字本村、字杉之内、字烏ヶ谷戸の、それぞれの地域にあった、常楽寺・蓮蔵寺・田通寺の三つの寺が合併して、今の寺の位置に、新しく寺を建立しました。当時の寺の本堂は、三つの寺の本堂を解体した古財で、建立されたもので、三ヶ寺の合併したあとも、檀家さんの戸数は、八十軒ほどしかありませんでした。

新しく合併して生まれた寺の名前は、三つの寺の中で最も歴史の古い、上田島字本村にあった常楽寺名としました。旧常楽寺の跡には不動

堂が残され、上田島字烏ヶ谷戸田通寺の跡には、薬師堂が残されました。

長い歴史の中で、三ヶ寺とも住職が不在だった時代も長く、また、火災に会うたりして、ほとんどの資料が失われてしまい、三ヶ寺の歴史もほとんど、はわかりませんでした。

しかし、旧常楽寺のお墓には、鎌倉時代に建立された、立派な墓石が残されており、群馬県内で今日までに発見された、先祖供養のために建立された、石塔の宝篋印塔は、県内最古の南北朝時代「歴応四年」の年号が刻まれています。また、その供養塔には、十二人のお坊さん方を呼んで、盛大な先祖供養をしたことが、刻まれています。

更に、今回の仏像二体の修復で判明したことですが、旧常楽寺で最初に祭られていたと思われる十一面観音像は、専門家の調査で、間違いなく平安時代後期に作られた貴重な仏像であることがわかりました。この仏像は、火災で運び出されたのでしよう、仏像の背中を飾る後背しほらや、

仏様の持ち物など、仏様が身に着けていた飾り物が失われていました。

お不動さまも、今回の修復で、全国的にも珍しい「なみきり不動像」であることがわかりました。この形の不動様は、お大師様が、中国からの帰りに、嵐に会って舟が難破しかけた時に、自ら刻んで、海に流し安全に帰国できたといわれる仏像で、その古事から生まれた姿です。